

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	野うさぎ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 10日 ～ 2025年 1月 29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日 ～ 年月日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小さな“できた”を積み重ね、自主的に参加できるような支援をしていること。	個々のお子様の特性を十分に理解し、一緒に楽しみながら関係性を築き、お子様自らが意欲的に取り組めるような言葉かけと関わりを持ち、自信を持ってプログラムに参加できるように支援している。	プログラムを通して、得意なこと、苦手なことを知り、再度支援方針を検討し、実施。小さな“できた”の積み重ねで更に自信に繋げていく。
2	活動プログラムの内容を立案する際に、必ず目的を明確化し企画することを心がけている。	5領域を念頭に、四季を実感できるイベント企画や、体験学習、身辺自立に向けた学習や、良好な対人関係の学習、実体験につながるような疑似体験企画など、いろいろな活動が経験できる工夫をしている。	職員からの立案だけではなく、イベント企画に児童も参加し、スケジュールに組み込み実績を積む。自分のやりたいことだけでなく、みんなのできることを企画できるようなアプローチも心がけている。
3	お互いに認め合えるような関わりを意識した言葉かけ。	完璧な人間は誰一人いない。できることもたくさんあり、間違え失敗することもある。大人だから完璧な訳でもなく、子どもだからなんでも許される訳ではない。色々な人がいてそれぞれの個性を認め合う。自分自身を認めてあげる。この気持ちを大切にできる支援を心がけている。	一緒におふざけし、一緒に叱られ、一緒に楽しむ。そして、共に成長する。この先、今後の幸せに繋がる関わりを持ち続ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会が少ないこと。	感染症対策に苦悩し、なかなか開催に至らなかった経緯があり見合わせる形となった。	事業所合同のイベントに参加予定。※R7.3.22
2	父母会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者様同士の交流の機会が設けられているが、ごきょうだい向けの交流の機会が設けられていない。	保護者会の開催は、定期的に実施できているが、ごきょうだい向けの交流会は、支援スタッフの数に限りがあり、なかなか開催には至っていない。	事業所スタッフだけの開催が難しいため、ボランティア依頼やインフォーマル支援者の協力依頼・法人の取り組みとして開催を検討するなど、実施に向けて計画していく。
3	定期的に避難訓練を実施しているが、利用児童全員に参加してもらうことができていない。	避難訓練の実施日に通所予定の無いお子様は参加できていないため、皆が参加できるような工夫が必要。避難訓練実施を平日に開催することが難しく、土曜日開催が多く参加児童に偏りが出ている。	実際に避難が必要になったときにスムーズに行動ができるように、避難訓練の実施回数を増やし、皆が体験できる機会を増やす。